

[月刊]キリスト教書評誌

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2018年2月1日発行(毎月一回発行)第722号

ISSN 0286-7001

本の ひろば

2 FEBRUARY
2018

出会い・本人

読書は本当に嫌いなのか? 落合建仁

宮原守男 著

信仰・希望・愛 船本弘毅

本・批評と紹介

大塚野百合 監修

こころの賛美歌・唱歌 小島誠志

日本聖書協会 刊

旧約聖書続編 スタディ版 新共同訳

廣石 望

新教出版社編集部 編

戦後70年の神学と教会 渡辺英俊

松本敏之 著

神と人間のドラマ 大島 力

越川弘英、吉岡光人 監修

主日礼拝の祈り 宮崎 光

本屋さんが選んだお勧めの本

既刊案内

H.A.オーバーマン 著/

日本ルター学会、日本カルヴァン研究会 訳

二つの宗教改革 芳賀 力

書店案内

マリリン・ロビンソン 著/宇野 元 訳

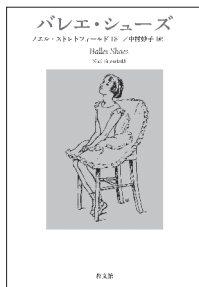
ギレアド 岸本和世

藤本朝巳 著

松居直と絵本づくり 菅田栄子



訳者40年ぶりの
新訳!



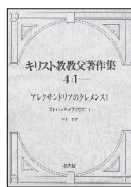
バレエ・シューズ
ノエル・ストレットフィールド著 中村妙子訳
1930年代の英国。姉妹として育てられた3人の孤児ポーリーン、ペトロヴァ、ポージーが、舞台芸術学院で学びながら収入を得て、自分の進む道を選んでいく物語。

●四六判・210頁・本体1,300円

シリーズ既刊
3/III エイレナイオス5 異端反駁V
2世紀の偉大な神学者であるリヨンの司教エイレナイオスの主著の最終巻!
●本体4,600円
●A5判函入・496頁・本体8,300円

バレエ・シューズ

ノエル・ストレットフィールド著 中村妙子訳



アレクサンドリアのクレメンセス著 秋山学訳
真に神を知る者とは何か。異端との論争の中で、信仰と知の関係を真摯に見つめ、当時のあらゆる文化的教養を福音受容の準備として積極的に評価し用いた、初期ギリシア教父クレメンセスの主著。

●A5判函入・496頁・本体8,300円

キリスト教教父著作集4―I アレクサンドリアのクレメンセスI

ストロマテイス(綴織)―

アレクサンドリアのクレメンセス著 秋山学訳

ノエル・ストレットフィールド著、中村妙子訳
シリーズ既刊!

ふたりのエアリエル



演劇の家に生まれた子どもたちが、それぞれの進む道を模索する姿と、温かく見守るおとなたちの姿を描く。

●四六判・230頁・本体1,400円

ふたりのスケーター



健康のため10歳でフィギュアスケートを始めたハリエットと、将来を期待されるスケーター1、ララ。ふたりが切磋琢磨しながら成長する姿を描く。

●四六判・210頁・本体1,200円



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL.03-3561-5549(出版部)
本のご注文は(e-shop 教文館)へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

e-shop 教文館



出会い・本・人

読書は本当に嫌いなのか？——落合建仁

全国大学生生活協同組合連合会が行った大学生生活実態調査（二〇一七年）によると、一日の読書時間が〇分の大学生はなんと約五割にのぼるといふ。もし同じ調査が、私が学生の時に行われたならば、私もその「約五割」の一人にカウントされていたであろう。というのは、私は大学生の頃まで読書が大嫌いだったからである。活字どころか絵本にすらまったく興味がなかったらしく、私の母親は、かなり早い段階で私への絵本の読み聞かせを諦めたという。そんな読書嫌いであった私が、今は書評誌の巻頭エッセイの執筆を依頼されるまでに至ったのだから、ただただ苦笑いするばかりである。

そこでふと思う。読書嫌いの私がなぜ読書をするようになったのか——私が読書を始めたのは、東京神学大学という伝道者養成を目的とする神学校に編入学した時からであった。なぜならば、神学校へ入ったものの、実は聖書を一度も通読したことさえなく、はたして授業についていけるか相当な危機感を抱いていたからである。それほど無知であった（今思えばよく入学させてもらったものだと思う）。

けれども入学早々、授業計画に記されている各講義の参考文献を全部読むことにした。次に、同級生や先輩が読んでいた本

の背表紙を見ては、それと同じ本を読んでみた。だんだん寸暇を惜しんで読書をするようになり、『キリスト教書総目録』（同目録刊行会発行）や各キリスト教出版社の目録を読むのさえ楽しくなってきた。そして、私が日本キリスト教史研究に興味を抱くきっかけとなった一冊の本と出会うこととなった。姉崎正治『切支丹伝道の興廢』（同文館、一九三〇年）がそれである。

「伝道の興廢」という語感に緊張感を覚えさせられるとともに、目の不自由だった日本人の元琵琶法師ロレンソをはじめとした伝道者たちの生き生きとした姿に魅せられたのであった。

読書嫌いの私がなぜ読書をするようになったのか——それは、神からの召命に応えたいと願い、伝道者として歩むという目的意識が定まった時、読書の意味もまた明らかにされたからである。よって、一日の読書時間が〇分の大学生は約五割と言われるが、確固とした目的意識が定まったら、将来読書を好きになる学生は結構多いのではないかと思っている。「主は人の一歩一歩を定め／御旨にかなう道を備えてくださる」お方（詩編三七・23〔新共同訳〕）、必ずや読書する道をも備えてくださることを信じるものである。

（おちあい・けんじ 金城学院大学准教授）

なつかしい花々の芳香をかく
大塚野百合監修

こころの賛美歌・唱歌 あのなつかしいメロディーと歌詞を歌う

司馬遼太郎は言います。明治は若々しく希望に向かう時代だった。青年たちはひたすら「坂の上の雲」を見上げて歩いた。明治をそんなに理想化することはできないと思います。第二次世界大戦の壊滅的敗戦に至る種子は既にその時代に蒔かれたものだったように思われます。

ただその時代にバタバタと始められた学校教育、その中の唱歌は評価されて然るべきものだと思います。鎖国二百数十年のあと一挙に流れ込んできた欧米の音楽の中から唱歌の編纂者たちは日本人の感性に合うものを選び出しました。また感性に合うように翻訳しました。

そういう意味でこの『こころの賛美歌・唱歌』のどのページを開いてもなつかしさが込み上げてきます。あの歌が讚美歌にもなっていたのかと思います。あるいは讚美歌のメロディーが唱歌に採用されているケースもあります。

たとえば「埴生の宿」は明治36年版『讚美歌』で「わずらい多き世の中にも」という歌詞でとり入れられています。フォスター作曲の「故郷の人々（スワニー川）」も同じ讚美歌に「花

美歌です。

「まぼろしの 影を追いて うき世にさまよい うつろう花にさそわれゆく 汝（な）が身のはかなさ 春は軒（のき）の雨 秋は庭の露 母はなみだ乾くまなく 祈ると知らずや」（54年版『讚美歌』五一〇番）

女性が逝去し、その子どもたちが残された場合、葬儀ではなくこの讚美歌を選びました。御遺族だけでなく参列のすべての人々の胸を打つものがあり深い静かな感動が広がります。司考者のわたしも毎回自分の母の面影が髪髯し、言葉が詰まります。この讚美歌も明治36年版『讚美歌』（本書五〇頁）に登場していますので、もう百年以上愛唱されてきたのです。

母について歌ったこれらの讚美歌は今日から見るとやや情緒的感傷的に過ぎると受けとられると思いますが、異教の日本で神の愛の深さ切実さをなんとしでも伝えようとする願いがそこに込められていたのだと想像されます。



小島誠志

よりも愛（め）でにし」という歌いだしてとり上げられています。母のもとを離れさよう我が子を思う母の祈りの歌となっています。「さまよえるか今は 花ちるくれ わが子よわが子よ とくかえり 心ゆくいのを 共にせすや」。初期讚美歌の作詞に大きな貢献をした別所梅之助の詩です。

日本でおそらくもつともよく知られている讚美歌は「いつくしみ深き」（54年版『讚美歌』三二二番）でしょう。これは戦前の唱歌で「星の界（よ）」として愛唱され、戦後は「星の世界」として歌われてきました。教会に初めて行った人が「おや、教会でもこの歌があったのか」と思うのです。この讚美歌は昭和6年版『讚美歌』にとり入れられ、「母ぎみにまざる」という歌詞で知られていました。

「母ぎみにまざる ともや世にある 生命（いのち）の春にも 老いの秋にも やさしくいたわり いとしみたもう 母ぎみにまざる ともや世にある」。

と、ここまできて連想させられるのが54年版『讚美歌』まで残っていて『讚美歌21』には惜しくも継承されなかったあの讚

わたしが伝道者になって初めて参加した葬儀は家族だけのものでした。生まれて間もなく亡くなった赤ちゃんを囲んでのものでした。わたしはすっかり緊張し、言葉もなく、主任牧師の所作を見守るばかりでした。そのとき歌われた讚美歌がこれでした。「思えばむかしイエスキミ おさなごをあつめ ともにあそばせたまひし その日なつかし……」（54年版『讚美歌』四六七番。本書四六頁）

この世からはいかなる慰めも受けとれないような悲しみの底に届いている主イエスの慰めを思いました。

どのページを開いてもわたしたちの信仰の道に慰めと感動を与えてくれた忘れがたい讚美歌が花園の花々のように芳香を放っています。

（おしま・せいし 日本基督教団久万教会牧師）
（B5判変型・六四頁・本体一六〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局）

日本語で書き下ろす聖書注解
シリーズ好評刊行中！



VTJ 旧約聖書注解 出エジプト記 1〜18章 鈴木佳秀

シリーズ刊行開始記念
特価 3672円
（2018年4月30日まで）

出エジプト記の出来事を編集意図という思想的視点から考察。「エクソダス」の現代的意義を我々に問いかける。
A5判上製・320頁・通常価格4750円



霊魂の不滅か 死者の復活か

新約聖書の証言から

オスカークルマン 岸千年／問垣洋助 訳 辻学 解説

ギリシア的な霊魂不滅説と新約聖書の復活信仰を対比させ、死と死後の問題を神学的立場から考察する。
四六判並製・88頁・1296円

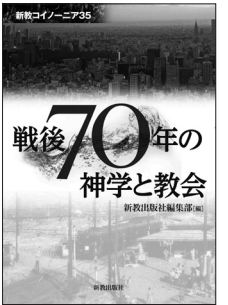
日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格8%税込)

http://bp-uccj.jp

「戦後日本」のキリスト教の反省的な総決算
新教出版社編集部編

新教コイノーニア 35 戦後70年の神学と教会



渡辺英俊

本書は、戦後70年という区切りでぜひ必要とされていた好企画である。具体的には、敗戦から70年に当たる二〇一五年の『福音と世界』誌特集より、「神学と教会」という二つの切り口から選定し、新たにまとめた（編集後記）もので、バラエティに富んだ内容である。

第1章の「神学」の項では、新約聖書学、旧約聖書学、歴史神学、組織神学、実践神学、神学教育の各分野につき、それぞれの専門家による学界概観が語られ、これらの分類に入りきらない分野として、女性、沖縄、移住民（在日外国人）の神学が別項で示されている。第2章の「教会」の項では、戦争責任告白の問題を軸に、各教派・団体の戦争責任告白の経過、沖縄の教会の歩み、また日本基督教団と沖縄との関係など、執筆者のそれぞれの歩みを踏まえた70年が語られている。テーマの膨大さと広範さは一冊のブックレットに盛りきれられるものではないが、少なくとも本書を手元に置くことによって、読者は戦後70年の神学と教会の歩みを鳥瞰的に一望することができるし、また地図を拡げて現在地を確認する人のように、自分の立っている

位置を確かめることができるであろう。

本書のそういう実用性とは別に、私が深く考えさせられたのは、村椿論文の指摘している、同じ「戦後70年」と言っても沖縄と日本とは「別々に生きてきた」と言わざるを得ないような違いがある、という点であった（二七―二八頁）。私なりに要約すれば、日本（本土）では戦後は終わったとさえ言われるのに対し、沖縄の70年は戦後でさえもない、他国の軍隊（復帰）前は米軍、その後は日米軍）の占領下に置かれたままの70年だったということである。二つの地域とそこに住む人びとは、別々の歴史を歩んできた。村椿さんは、沖縄に住む日本（本土）出身の牧師として、この二つの引き裂かれた歴史の狭間に立って「歴史」を問うておられる。

私は、本書の一つの読み方として、この村椿論文を下敷きにして、その光に透かして他の文章を読んでみたかどうかと思う。そうすれば、「戦後70年」の日本の教会と神学が、みずからの立っている歴史的基盤とどう噛み合いつつ営まれて来たかが浮かび上がってこよう。もしかしたら、神学の各専門分野の中の

心消失と果てしない細分化・分散化は、多様性の開花というよりは、歴史から浮き上がった焦点喪失の結果として理解されるかもしれない。また女性、移住民（外国人）、障がい者、被差別部落など、被差別者・被抑圧者、マイノリティの問題への取り組みの中には、根っこところで沖縄と共通する質の歴史を担ってきた歩みが見いだせるかも知れない。

村椿論文の提起している「二つの異なった歴史」という視点は、「解放の神学」が世界的規模で提起している問題と通底している。それは、宮城論文が「社会正義神学」（85頁）として提起しているものとも共通の質を含んでいるであろう。本書では触れられていないが、私にとっての「戦後70年」で忘れられないのは、一九七〇年の万博キリスト教館出展をきっかけに噴出した教会批判と、一九八〇年代前半に世界に衝撃を与えた「解放の神学」からの問いであった。この二つは、前者が「先進」世界内部からの内部告発であり、後者が第三世界という

「外」からの告発だという違いはあったが、ともに問われているのは「先進」地域による第三世界地域の植民地化という侵略の歴史であり、それと「世界宣教」との共犯関係だった。加害側と被害側という二つの違った歴史がここに明示され、教会の歴史そのものが見直しを迫られているのである。私自身は、一九八〇年代以来、「移住労働者」の渡来という「二つの歴史」の出会いの現場に身を置いて、そこで問われている事柄と自分なりに取り組んできたつもりである。

こんなふうに、本書を片手にそれぞれの「70年」を思いめぐらしてみたらどうだろうか。

（わたなべ・ひでとし 日本基督教団隠退教師）
（A5判・一六〇頁・本体一五〇〇円＋税・新教出版社）



神の国

説教

及川信
Shin Oikawa



「神の国」の重要な柱は
十字架と復活。

ルカによる福音書の
「神の国」という語のある
箇所のみをセレクト。
「神の国に生きよ」と招く
神の言葉を力強く語る。

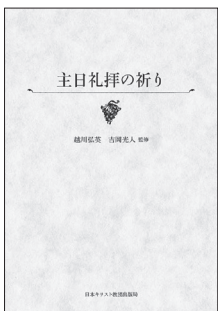
四六判・並製
定価【本体 2,400 + 税】円
ISBN978-4-86325-105-2



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢 3 丁目 4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

個人の祈りと信仰が養われる、共同の祈りの書
越川弘英、吉岡光人監修

主日礼拝の祈り



宮崎光

ジェイムズ・モンゴメリーによる一八一八年の賛美歌「祈りは口より」は、次のように歌います。「Prayer is the soul's sincere desire, uttered or unexpressed.」（祈りは魂の誠実な願い。口に出されることも、言葉にされていないことも）。また、こうも歌います。「祈りは幼きくちびるにも、言いうるたやすき言の葉なり」（『讚美歌』308番、『日本聖公会聖歌集』549番）。言葉に巧く言い表せなくても、稚拙な言葉であっても、真心から溢れ出るならば、それは「祈り」です。それゆえ、文字化（成文化）された祈りを用いることを、人はしばしば「形骸化」と躊躇します。私の属す日本聖公会は、英国教会成立以来、『祈祷書』に拠る礼拝が特徴であるため、成文化された祈りを見て、唱えることは自明ですが、「自分の言葉で祈る」ことに重点を置く教会においては、本書のような「祈祷集」に対して抵抗感や違和感があるかもしれません。そのような人に向けて、「本書は主日礼拝の祈りを例示する祈祷集」と「はじめに」の第一行（三頁）で謳うところに、監修者の配慮を感じます。

本書は、「開式の祈り」「行事の祈り」「罪の告白の祈り／執り成しの祈り／奉献の祈り（献金後の感謝の祈り）」の三部構成です。日本キリスト教団出版局聖書日課編集委員会が提示した教会暦と聖書日課に基づいて編成された、毎主日（及び主日以外の主要な日 降誕日、灰の水曜日、昇天日他）の「開式の祈り」は、本書の執筆者として名を連ねる小栗献、越川弘英、小林よう子、勝田英嗣、丹治めぐみ、吉岡光人の各氏による書き下ろしです（巻末の執筆者一覧に担当頁が明記されています）。「行事の祈り」は、日本基督教団の定める行事を踏まえて、その意味に関連した内容の祈りが二十種収められています。「罪の告白の祈り」は一九種あり、内七種は二〇〇六年に行された『日本基督教団 式文（試用版）』からの転載です。同様に、「執り成しの祈り」は十五種、内三種転載。「奉献の祈り」は十五種、内三種転載です。既に公表された祈祷文等を収録している点に、本書の資料的価値と実用性を見出すことができます。

「開式の祈り」は全般的に似通ったパターンがあるように感

じます。各祈りの前半は、聖書日課に関連した神のみ業への感謝賛美と、その根拠となる叙述が豊かです。そして後半で、人間の至らなさを、神の意思や望みを妨げ、損なっているわたしたちに、罪の自覚を促し、神により頼む祈願で結ぶという構成で、多少、悔悛的な面が強調されている印象を持ちます。でもこれが直近の世界の現実感（リアリティ）なのかもしれません。

本書の祈りにおける神への呼びかけの多くは、「神さま」と表記しています。従来は、「神よ」「主よ」という呼びかけが主流です。しかし、「よ」という呼称は幾分、文語的な表現であることに気づかされます。とはいえ、口語表現における呼称は十全か、文語の助けを借りて祈りの言葉は成り立つのではないか、という問題提起も含まれます。耳から聞こえる分には自然であっても、文字として見る場合には、ぎこちなさを覚えることもあるでしょう。本書は、幼稚ではなく、理屈っぽくなく、簡素でありつつ、豊かで確かな内容の祈りを提供し、そうして、

「私たち一人ひとりの祈りと信仰が養われる」（四頁）ための試金石となるでしょう。

本書は、「自由祈祷」を否定するものではなく、「自由祈祷と成文祈祷のそれぞれの長所を活かしながら、主日礼拝の祈りをさらに豊かなものとしていく」（二〇頁）ことを願って編集され、「それぞれの教会の方針や習慣によって表現を改めたり内容を編集したりすることはなんらさしつかえありません。むしろこれらの祈りをひとつのモデルとして柔軟に活用していただき、……豊かな礼拝形成のための資料として用いられることを心から願っています」（四頁）とあります。これは読者（使用者）に対しての配慮であると同時に、各教会や教職者たちの「祈り」についての神学的立場や姿勢を自覚させ、問い直すことを促すという、本書の意義、挑戦をも感じました。

（みやざき・ひかり日本聖公会司祭・立教大学チャプレン）
（B6判・二二六頁・本体一五〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局）

鍋谷憲一

（日本基督教団根津教会牧師）

（四六判変型・一九二頁・〇〇〇円）

ゴメンナサイありがとう

聖書は確かにブアツイけれど、書かれていますのは三言だけ。

商社マンとして海外を飛び回り、帰国し47歳でキリスト教の洗礼を受け、52歳で神学校に飛び込み、その2年後から根津教会の牧師に「もしキリストがサラリーマンだったら」の著者、69歳にして初の説教集！

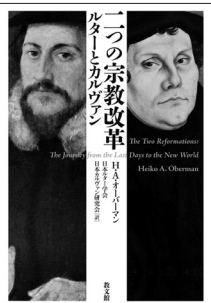
アントニー・M・コリアス松島雄一訳（原ハント文と聖書問答）
正教会司祭の処方箋171
*ご注文殺到！
聖書の人物たちも、最も偉大な聖者も、教会の聖職者たちも……みんなが「落胆」の経験者。でもだいじょうぶ、171のタイムリーな処方箋があなただの落ちこみを、希望への足がかりに変えてくれます。

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
お問合せは info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851（本体税別表示）
*自費出版の専門出版社*資料・星

中世と宗教改革はどのようにつながるのか？

H・A・オーバーマン著
日本ルター学会／日本カルヴァン研究会訳

二つの宗教改革 ルターとカルヴァン



芳賀 力

本書は『中世神学の秋』をもつて学会、デヴェューを果たしたオランダの歴史神学者ハイコ・オーバーマンの遺作である。専門的な学術研究書というより、生涯をかけて宗教改革の歴史を見つめ続けてきた碩学の総括的評論と言ふに近い。彼はオックスフォード、ユトレヒトで学び、ハーヴァードで教えながら研究生活を送った。それは彼に、宗教改革の舞台を外から冷静に眺める視点を与えたことを意味する。独自の視点をつかんだ後、

テュービンゲンの「後期中世・宗教改革研究所」所長に迎えられる。彼はその時の意気込みを振り返ってこう語る。「いよいよ私は文書資料を携えてテュービンゲンへと乗り込んでいった」（二三四頁）。独自の視点とは、宗教改革が中世の思想に深く負っているという連続性の発見であった。

ともするとルターは中世から近代へと歯車を動かした世界史上の大人物、ドイツの生んだ英雄として称えられるが、そこにはロマンティックな理想化が見られる。それはヒトラーを歓迎する狭いナシヨナリズムの温床ともなった。ドイツの外に身を置いていた分、オーバーマンにはそれがよく見える。ルターが

一気に改革を達成したわけではない。「力強い神のブルドーザーがやって来て、宗教改革への途上にあるすべてのバリケードをいっぺんに粉砕した、という考えは現実的でない」（九六頁）。中世後期にはすでに変化の兆しが垣間見える。

黒死病（ペスト）の猛威は、ヨーロッパの人口三分の一の人々を死に至らしめた。この無秩序の経験は、思想の分野でノミナリズム（唯名論）の台頭を呼び起こした。普遍概念から確固とした真理命題（たとえば教皇制）を演繹する、それまで主流だった普遍実在論の「古い方法」に対し、各個の経験的現実から帰納的に真理を推論する「新しい方法」が興った。ルターはこの中世末期ノミナリズムの落とし子である。ここでは、神はもはやトマス的な至高の超越存在ではなく、歴史の中で動く動的な約束の付与者である。不安の中で新しい霊性を求める運動は各地に広まっていた。教皇制から公会議主義への動き、敬虔な「新しい信心（devotio moderna）」運動、托鉢修道会による巡回説教運動など。一修道僧として間違いなくルターもこの流れの中にいたのである。

オーバーマンの観察方法は『中世の秋』のホイジンガーの手法とよく似ている。神学的判断に際して社会的、民衆史的視点をも取り込む。思想は生活の具体的な細部に宿る。通りの泥や市場の騒がしさや臭いを忘れて思想だけに向かうと、私たちは歴史のルターを見失う。実際のルターは、同胞と同じく日々の生活の厳しい現実の中に生きていた。「社会思想史の中に分け入り、泥と市場、組合会館と参事会館とを、厚みある記述に取り入れることによってのみ」（一三四頁）私たちは歴史に公平な判断を下すことができる。例えば、ルターは『修道誓願についての判断』（一五二一年）で修道誓願を否定した。しかし実際に修道服を脱いで公衆の前に立ったのは三年後の一五二四年一月九日だった。つまり彼は中世の修道士として逡巡しながら、カトリックの中で改革を志していたのである。

では画然と時代を分かちに至らしめたものは何か。国際的カルヴィニズムの誕生である。これも最初からそのことが目指さ

れたわけではない。故国からの追放と流浪という生活の条件が、国際的ネットワークを作る結果をもたらした。カルヴァン自身がそのように追放と流浪を経験した人である。そこから彼の選びと予定論の教理が生まれた。迫害の最中、信仰を貫けるかどうかは神の堅忍の恵みに懸かっている。その根拠を提供したものが予定の教理であり、それは決して冷たい教えではなかった。なおカルヴァンの聖書解釈で accommodatio Dei は「調整」ではなく、既に定着している「適応」と訳す方が分かりやすいだろう（一四一頁）。ルターとカルヴァンの研究者たちが丹念に訳された共同作業に心から敬意を表したい。

（はが・つとむ＝東京神学大学教授）
（A5判・三〇〇頁・本体三五〇〇円＋税・教文館）



片柳弘史（カトリック神父）

ココロの深呼吸

気づきと癒しの言葉 366

インターネットで配信され、6万超の共感を集めたつぶやきを書籍化。まいにち頑張るあなたへ向けた言葉の贈り物。大切な方へのプレゼントとしても最適です！

●A6判(文庫判)・390頁・本体900円

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
TEL 03-3561-5549
星／図書目録 ●価格は税抜

現代の古典と呼ぶにふさわしい傑作
マリリン・ロビンソン著
宇野 元訳

ギレアド



岸本和世

この小説を手にする(老)牧師の多くは、「まさにわがことのように」と思いながら読みふけり、いつの間にか自分自身の思い出に浸っていくのを避けられないでしょう。わたしはそうでした。言い過ぎだと思ふなら、最初の12頁くらいまででも読んでみて下さい。そこで止めてしまえる(老)牧師はいないと思います。

この作品は、著者マリリン・ロビンソンが設定した米国中西部の大平原に位置するギレアドという架空の小さな町(聖書では、創世記37章25節、特にエレミヤ書8章22節に注目)を主な舞台としたものです。そこでの約一二〇年間という時の流れにおける様々な歴史のあるいは個人的な出来事の回想を、狭心症を患って死期の近さを感じている七六歳の老牧師が記している形をとっています。

主人公は「君(七歳たらずの息子)が成人したとき、……父親として、ぜひとも伝えるべきだと思うだろうことを記しておくのがこの手紙の目的だ」とか、「君と会話することが、そもそもの意図だった」などと記しているのですが、本書は遺書あ

るいは手紙とも、日記、備忘録とも受け取れるものになっています。

設定されている一二〇年とは、ジョン・エイムズという同じ名前の祖父・父・本人が三代続きで同じギレアドの会衆派教会に牧師として働いた期間を指しており、南北戦争、二度の世界大戦、干ばつ、疫病、大恐慌、人種差別などが、牧会者たちの生活に一方ならない影を落としています。そうした時代設定を見ることで、主人公と同じくらしいの高齢者は、時や所を異にしてはいても深い共感を覚えるでしょう。

わたしは、日本で三代続きで牧師という方々を知っていますが、三代とも同じ教会という方は知りません。わたしの場合、生まれてから引退するまでずっと牧師館で生活したので、牧師の家族の生活の苦しみや喜び、悲しみ、貧しさや豊かさなど、幼い時からの日々を思い出して思わず胸が熱くなりました。

この手紙は約一年かけて書かれたことになっています。普通の小説にあるような章による区分も日付もありません。むしろ数多くの行間が挟まれています。成人した時の息子が読むよう

にと書きながら、いつの間にか幼ない頃の純真な日々の追憶、あるいは親子の、夫婦の、兄弟の、幼な友だち同士の間柄、教会員の様子、牧会や日常生活にまつわる喜びや悲しみや恐れへの記憶や、若い友人をめぐって起きた葛藤と牧師らしくない人間くさい心の揺れなど、ついでに思ひにふけてしまったりする様子を、著者は行間によって表現しているようです。

三人の牧師に共通な個人的な性格として痲痺持ちであることが挙げられますが、それ故に牧師親子の間に重い不和や確執を起したとの記述は、聖書の「放蕩息子の譬え」を暗示させ、この物語が全体を通して「ゆるし」というメッセージに読者を導いていきます。

著者の豊かな文学的力量は、心を打つ美しい情景を提供していますし、中西部大平原の中のギレアドは辺境のガララヤを思わせ、主人公が早朝に教会へ行くという記述にはイエスの早朝の祈りが重なります。牧会や説教についての言及やカール・バルトやカルヴァンを論じる神学へと深まって行く記述に繰り返

されているメッセージには、著者の長年にわたるアイオワ合同会衆派教会の役員としての働きや経験が十分に生かされています。

そろそろこの書評をまとめようとしていた11月25日、パソコンを開いたら、なんとこの日のインドの新聞「THE HINDU」の電子版に載せられている「ギレアド」の紹介が目に入りました。その結びはこうです。「我々が生きている困難な時代にあつて、エイムズの語る希望、和解、そして他者への理解は、将来に向かう輝く光である」と。二〇〇四年に出版された本書が、翌年ピューリッツァー賞と全米批評家賞を受けていますが、十数年経った今日もこのように世界各地で話題にされ高い評価を受けており、数々の賞を受け続けています。まさに現代の古典と呼ぶにふさわしい傑作です。読んで、「祈って、眠るとしよ」(小説を締めくくる老牧師の言葉です)。

(きしもと・かずよ||日本基督教団隠退牧師)
(四六判・三五〇頁・本体三〇〇〇円＋税・新教出版社)



キリスト教書総目録 2018年版

明治150年 近代日本とキリスト教 巻頭メッセージ 鈴木範久氏 小椋山ルイ氏

総記年鑑 辞事典 図説年表 全集(著作集) 叢書 講座 聖書 聖書学 神学 宗教学 思想倫理 伝記(フライングシオン) 信仰 入門書 人生論 説教集 文学小説 評論 著書 詩 劇 音楽 美術 建築 教育 保育 心理 社会福祉 児童 絵本 讃美歌 式文/DVD CD カセット ビデオ/キリスト教関連 雑誌新聞 書名索引/著者索引/掲載出版社名簿

■ A5判 一般頒価1冊286円＋税 送料250円
■ お近くの書店様でお求めください。

キリスト教書総目録刊行会
事務局 〒162-8710 東京都新宿区 東五軒町6-24 トーハンビル内
TEL.03-3266-9521

絵本の力と作り手の思いを伝える

藤本朝巳著

松居直と絵本づくり



菅田栄子

四十数年前、松山の講演会で福音館書店の松居直先生が読んでくださった『はなをくんくん』（福音館書店。動物たちが雪降る中をかけていきます。一緒になってかけていくわたし、ペーじをめくり雪のなかに黄色のお花が咲いているのをみつけたときの喜び。その時の感覚を先生の表情や声とともに今でも思い出します。また、松居先生からの「あなたは、どんな言葉を食べさせていますか」との問いかけは、今も私の心の中に生きて働き続けています。

『松居直と絵本づくり』は平和を願い祈りとともに歩んでおられる松居先生の出会った人々と、絵本にこめた思いについて、児童文学研究者藤本朝巳氏がインタビューを通して、ていねいに聴き取られ、まとめられた一冊です。

松居先生は同志社大学で牧師の心を込めた聖書の朗読を聞かれたとき、言葉は聞くことが大事と気づかれ、教会に通われるようになり、「聞く体験」を重ねていけます。やがて、一九五六年四月松居先生は月刊絵本「こどものとも」第1号を創刊され、一九六八年八月149号まで編集者として一冊一冊の絵

本を丁寧に創られ私たちに届けてくださいました。絵本づくりを通して出会われた作家・画家の方々と興味深いエピソードから、静かな中にも子どもに伝えたい熱い思いが伝わってきます。

また、加古里子氏と中国の画家常嘉焯氏の協力で完成した新しい絵本『万里の長城』について松居先生は「国と国が互いの正しい歴史、文化を尊重して、……これからみんなが平和に暮らすようにするために、どういう風に交流するか、そこが大切なところですよ」（二一五頁）と語られています。この言葉を受けとめ、これからも子どもたちや学生、地域の子育て支援の方々、保育者仲間とともに豊かな言葉の体験を模索しつつ絵本を読んでいきたいと思えます。

本書は、松居先生のお仕事を通して、今、子どもたちに何を伝えていくことが大切なのかを考えていくにふさわしい本ではないでしょうか。現在、子どもたちの周りには、電子情報機器が多くあります。知識の獲得には便利ですが、スマートフォンを赤ちゃんに長時間見せていたり、お母さんがスマホに夢中で

赤ちゃんが泣いて訴えていることに応えていかなかったりすると、赤ちゃんは泣いたり笑ったりしなくなる報告もあります。人との触れ合いが少なくなること、相手の感情をわかっていしたり、自分の思いを伝えようとしたりする気持ちが育つていきにくいというのを聞きます。だからこそ、子どもの時には直接体験や絵本を通して感情を豊かに育み、他の人を思いやる心を育てていきたいと願います。

松山では、高齢の方々も子育て支援の働きをしたいと希望される方が多くなっています。講習会に絵本を持って行き読むと、研修を受けておられる方々から、「なつかしい」「子どもに読んでいた時を思い出す」「孫に買って送りたい」との声が聞かれます。松居先生が編集者として作られた絵本から、時を超え、二度三度と読者は新しい感動を覚えます。

人気の絵本は『ぐりとぐら』（こどものとも 93号）、『おおかみかぶ』（こどものとも 74号）、そして『しんせつなとも

だち』（こどものとも 109号）。どれもみんな分かんない、自分のことを思ってくれる人がいることを感じさせられます。読み終わると、心が温かくなります。現代だからこそ、子どもたちに教訓として伝えるのではなく、読む人の声を聞き、触れあつて共にいる喜びを味わっていくことが大切だと思います。そのためにも、まず大人が絵本を楽しく読むことが大切と思えます。本書はそのことにあらためて気づかされる一冊です。

（すげた・えいこ 松山東雲短期大学特任教授）
（四六判・二三八頁・本体一八〇〇円＋税・教文館）

廣瀬 薫

（東京キリスト教学園理事長）『羽仁もと子著作集』「信仰篇」4



「継承されていたことに時の重みを感じる」

大日向雅美推薦（恵泉女学園大学学長）

祈りのうちに生きられた羽仁先生のお姿を、確かに受け継いだお祖母様とお母様の愛に大切に育まれた廣瀬先生ゆえに、かほどにすばらしい冊子のシリーズ化がなされたと言つて過言ではないことでしょう。良く生きた一人の女性の心が多くの女性たちへ、そして、その子どもたちへ受け継がれていったことに時の重みを感じ、そうした継承者を得た羽仁先生自身も改めて思うところですよ。

AS 判・二二八頁
1,000円
ISBN978-4-907466-00-0

- シリーズ全12巻発行予定 各巻一〇〇〇円 *絶版発売中!
- シリーズ1 著作集第21巻 『思想のなかの 寺田龍雄(たけのりゅう)』(絶版)
- シリーズ2 著作集第21巻 『思想のなかの 寺田龍雄(たけのりゅう)』(絶版)
- シリーズ3 著作集第19巻 『友への手紙』(絶版)
- シリーズ4 著作集第16巻 『みづのこ(みづのこ)』(絶版)
- シリーズ5 著作集第15巻 『自由・協力・愛のよ』(絶版)
- シリーズ6 著作集第4巻 『思想しつづ生活しつづ』(下) (絶版)
- シリーズ7 著作集第3巻 『思想しつづ生活しつづ』(中) (絶版)
- シリーズ8 著作集第15巻 『信仰篇』1 既刊
- シリーズ9 著作集第15巻 『信仰篇』2 既刊
- シリーズ10 著作集第15巻 『信仰篇』3 既刊
- シリーズ11 著作集第15巻 『信仰篇』4 既刊
- シリーズ12 著作集第15巻 『信仰篇』5

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
お問合せは info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 (本体税別表示)
*自費出版の専門出版社*資料・星

著名な法律家が綴った信仰のあかしと職業倫理

宮原守男著

信仰・希望・愛



船本弘毅

戦後の日本をゆるがせた多くの事件に関わった著名な弁護士である宮原守男氏は、同時に小さな家庭集会のような日本基督教団新泉教会の忠実な信徒であり、「ことば」特に聖書のことばに深い関心と興味を持ち、教会の時報「切株」に、「ことば紀行」を連載しておられます。

このたび出版された『信仰・希望・愛』は法曹界をリードする一キリスト者として、あるいはキリスト者として数々の重大な事件と取組んだ一弁護士としての「証しの書」と言えるでしょう。

全体は三部から成っています。

第一部 奨励「信仰・希望・愛」

第二部 寄稿「学び舎での思い出」

第三部 講義録「若き法律家の皆様へ」

第一部の「奨励」は二〇一七年八月六日に新泉教会の礼拝で語られたものです。信仰・希望・愛という言葉で表現されるキ

リスト者の歩みを、第一章の「信仰（信頼）」では、田中角栄のロッキード事件、第二章の「希望」では、三井三池労働争議、第三章の「愛と和解」では、交通事故などの民事事件の裁判を通して語っています。

著者は本書の「あとがき」の中に、若き日にマルクス主義の洗礼を受け、その超克を願ってマックス・ヴェーバーの学びを志し、「基督教社会科学研究会」に参加したこと、生涯心の中にはマルクス主義とキリスト教精神との相克があったことを述べていますが、六三年間の弁護士生活を通して多くの業績を残しながら、常にこの相克と直面し続けてきたキリスト者の思いと歩みが滲み出ています。弁護士は善人を弁護するのではなく、悪人とと言われる人にも必ず善があることを見出して、その人を弁護し守る使命があるという確信をもって、ロッキード事件の弁護に取り組むことを決意した経緯が、第一章では明らかにされています。第二章では三井三池の労働争議において組合側の弁護をした経験が、後にお膝元の教文館の大争議の解決のために役立ったことを淡々と語られ興味深いものがあります。

第三章では交通事故を含む民事事件の殆どを和解で解決したが、和解のためには論理的な条文に基づく裁判のみでなく、体験して来た職業的「勘」が必要であり、その根底には愛があることが語られています。

第二部は、福岡市立福岡高校校長に宛てられた手紙、東京大学Y M C Aの会報（一九六七年）に寄せられた原稿、福岡県立福岡高校一〇〇周年記念文集のために書かれた「福中の三年までに二回落第」という思い出を綴った文の、三つの寄稿文から成り、「学び舎での思い出」と題されています。

第三部は、「私は弁護士になって六〇年を超えましたが、これまで私が習得して来た実務感覚、ノウハウといったものを、これからの時代を背負う若い弁護士の皆様に伝えて行くことが重要であると感じるようになりました」という序文に始まり、二〇一一年二月から、二ヶ月に一回の頻度で友人四人と共に講師となって開いている研究会、いわゆる「宮原学校」（三一頁参照）での講義録が、「若き法律家の皆様へ」と題して収められています。分量的にも内容的にも本書の中心をなすものですが、ここまで言っても良いのかなと思われるほどに、宮原氏の歩んで来られた道と、その中で目指して来た思いとが、赤裸々に、大胆に語られています。内容は、第一章「弁護士の心構え」、第二章「裁判における戦略（Strategy）」、第三章「裁

判官に有効な刺激を与えるノウハウ」に分けられています。各章の終わりにはコラムとして、「概念法学からリアリズム法学へ」「法社会学」「トポロジー」が論じられ、深さを与えています。さらに総計二四節に分けて講義が進められていますから、文字通り「微に入り細をうがう」具体性を備えており、若き法律家にとっては、ここから多くを学ぶことが出来ることでしょう。

本書を読み終えて感じたことは、人間への温かい思いやりです。「私はいい加減な人間だ」と言うのは、宮原氏の口癖ですが、このことばの中には弱い人間が共に生きるために働くのが弁護士としての私の使命だという自覚と確信があり、それを支える信仰があることを強く感じます。判決によって黑白をつける前に、和解の道を探す姿勢を貫かれた六三年間の歩みが、ありのまま書き綴られています。

わたしたちは今、厳しい難しい時代と直面しています。本書『信仰・希望・愛』は、そのわたしたちに、如何に生きるかを「問いかける書」なのではないでしょうか。

（ふなもと・ひろき 関西学院大学名誉教授）
（小B6判・二〇〇頁・頒布価九二六円＋税・取扱 教文館総務部）

旧約聖書続編の世界への最良の手引き

旧約聖書続編 スタディ版 新共同訳



廣石 望

『旧約聖書』が、キリスト教正典である『聖書』の第一の名称であることは、よく知られている（そして第二部が『新約聖書』）。しかし一九八七年、ローマ・カトリック教会と日本聖公会、そしてプロテスタント諸教会による共同訳として『聖書 新共同訳』が日本聖書協会から刊行された際に、旧約と新約がワンセットになった刊本と並んで、その中間に「旧約聖書続編」という名称の下で計一五の文書の日本語訳が収められた『聖書 新共同訳 旧約聖書続編つき』が公刊されていることは、知らない人もいるかもしれない。一般にプロテスタント系の教会や私立学校では、この『続編つき』を用いない。たいへん残念なことである。

その旧約聖書続編に収められた諸文書の『新共同訳』聖書の訳文に、解説と注を付した「スタディ版」が本書である。解説と注は J. B. Green (ed.), *The CEB Study Bible with Apocrypha*, Common English Bible, Nashville, TN 2013 からの訳訳であり、採用された文書数とその配列は『新共同訳』に準拠する。「注」は関連する聖書箇所をよく指示しており、

「コラム」は解釈上の要点を——ときにかなり明確なポジションを採用しつつ——説明していて興味深い。

すでに本書の姉妹編として、*The Learning Bible: Contemporary English Version*, American Bible Society, New York 2000 に基づく『聖書 スタディ版 わかりやすい解説つき 新共同訳』（二〇〇六年、二〇一四年改訂版）が出版されている。しかし、これには「旧約聖書続編」は含まれない。したがって本書は、一冊の書物のかたちで、これらの文書注をつきの日本語訳で読めるものとして、最初のものと言えよう（個々の文書のかたちでは、日本聖書学研究所編『聖書外典偽典』全九巻、一九七五—八二年の該当巻、フランシスコ公会聖書研究所・訳注『聖書 原文校訂による口語訳』二〇一一年がある）。

さて、そもそも「旧約聖書続編」という分類名称が必要な理由は何か？ それは、いわゆる旧約聖書にもいろいろあり、そこに含まれる文書の数が、伝統的にカトリック教会その他では、プロテスタント教会におけるよりも多いからであり、さらに共

同訳の一環として、従来の「外典」ないし「第二正典」という名称のプロテスタント的ないしカトリック的な含意を等しく回避し、中立的に「続編」と呼称するからである。

そのいろいろある旧約聖書の中でも、とりわけ重要なのがヘレニズム時代のディアスポラ・ユダヤ教で成立した『七十人訳聖書（セプチュアギンタ）』（ギリシア語）、ローマ時代の第一次ユダヤ戦争（紀元六六—七〇年）敗北後に再編成されたユダヤ教によって正典化された『聖書（タナハ）』（ヘブライ語、一部がアラム語）、古代教父ヒエロニムス（紀元四世紀末）の翻訳に遡る『ウルガタ訳聖書』（ラテン語）、そして宗教改革期のルターによる『旧約聖書』の翻訳（ドイツ語）であろう。簡単に言うると「旧約続編」とは、ヘブライ語『聖書』に含まれないことを理由にルター訳『旧約聖書』から排除された、しかしそれ以前に『七十人訳聖書』に、そしてとりわけカトリック教会がルターに対抗してトリエント公会議（一五四六年）で正式に正典と定めた『ウルガタ訳聖書』に含まれていた諸文書であり、本『スタディ版』での文書配列も『ウルガタ』に沿っている（し

かし所収されない文書もある）。

これらの文書の成立時期はざっと紀元前三世紀から紀元後一世紀まで、つまり旧約と新約の中間時代に当たり、成立場所は主にパレスティナだが、ディアスポラ成立の文書も含まれる。文学類型の点では民族説話（トビト記、ユデイト記、エステル記（ギリシア語）、歴史書（マカバイ記一・二）、知恵文学（知恵の書、シラ書）、預言文学への補遺（バルク書、エレミヤの手紙、ダニエル書補遺）、聖書文書の再話（エズラ記（ギリシア語）、黙示文学（エズラ記（ラテン語）——紀元七〇年の神殿崩壊を前提）、祈禱（マナセの祈り）と多様である。これらの文書は、キリスト教成立の直接的背景であるユダヤ教を知る上で重要であり、後代のキリスト教神学や文化にも大きな影響を与えている。昨年は宗教改革五〇〇周年に当たり、改めて「聖書とは何か」を考える上で、「旧約聖書続編」を学ぶことは時宜に適切であろう。

（ひろいし・のぞむ 立教大学文学部教授）
（A5判・五六四頁・本体四八〇〇円＋税・日本聖書協会）

神学ダイジェスト123号

急速な変化を遂げる現代社会。その中にある、多様な価値観に直面するキリスト者。本誌は海外の神学動向を紹介しながら、現代人のかかえる信仰への真摯な問いに光をあてる。

2017年12月発行
A5判112頁
定価630円（税込）

特集 社会教説と教皇フランシスコ
巻頭言 社会教説とは
教会の社会的識別と現教皇
教皇フランシスコと「民の神学」
カトリック社会教説と労働正義
キリスト教信仰とヒューマニズム
社会の構造的罪とは何か
愛と沈黙
（第七回）『正教神学概論』聖霊の働き
ルターの聖書釈義と宗教改革

J・フェアシュトラーテン
M・シーゲル
J・C・スカノーネ
C・F・ヒンジョー
J・M・ベルゴリオ
D・K・フィン
W・G・ジャンロンド
V・ロススキ
T・ゼーディング

上智大学神学会
神学ダイジェスト編集委員会
東京都練馬区上石神井4-32-11
〒177-0044 Tel & Fax (03) 3594-4349
E-mail shing-dt@netjoy.ne.jp

神との出会いが和解を生む
松本敏之著

神と人間のドラマ 創世記25〜36章による説教



大島 力

日本キリスト教団出版局から発行されている『説教黙想 アレタイア』は、二〇一六年以降、エレミヤ書を取り上げて連続講解説教黙想を掲載してきた。これは日本の戦後民主主義が危機に瀕している中で、旧約預言者に学び、その言葉から「いのちの言葉、力の言葉」（加藤常昭）を聞き取りたいとの願いからであったという。とりわけバビロン捕囚に至る時代に悲嘆の預言者として生きたエレミヤの言葉には、その求めに応える内容がある。また、二〇一七年度からは創世記が取り上げられている。それはより根本的に旧約聖書の言葉に聞きたいとの願いからであったようである。この選択も適切なものであったと思う。しかし、いざれせよ現在の時代状況を考えると（端的に言えばポピュリズムの横行等）、神と人間と世界（自然を含む）の問題を根源的に問う創世記は、現代の説教者が本格的取り組むべきテキストであることは明らかであろう。

さて、本書の著者である松本敏之氏は二〇〇七年以降、既に自らが牧会する教会において、ほぼ月に一回、創世記の説教を試みており、その内容は『神の美しい世界——創世記1〜11章

の言葉を聞いたのである。これを著者は、かつて自分が牧師として仕えていたブラジルの人々が仕事のために日本に移住してきて初めて、自覚的に教会に通うようになる事情と関連させて語っている。つまり、故郷を離れて暮らす寄留者が心の支えを求めて、教会に集まる。そして神に出会うのである。これは、著者のこれまでの経験に根差した説教的な語りである。

他方、ヤコブ物語のクライマックスは、兄との和解の場面である。しかし、ヤコブはその前にヤボクの渡して何者かと格闘し、祝福を願った。そのことを著者は信仰者の祈りの格闘と関連させ、さらにはイエスのゲッセマネの祈りに結びつける。「この時のヤコブの姿の中には、十字架につけられたイエス・キリストの予型があります。イエス・キリストは私たち人間の代表として、神と向き合い、私たちに勝利と祝福をもたらすために、一歩も引かず、最後まで闘い抜かれました。ヤコブの傷は腿だけでしたが、イエス・キリストの受けられた傷は死に至

による説教』、『神に導かれる人生——創世記12〜25章による説教』（共にキリスト新聞社刊）として刊行されている。本書は、

それに続くものである。今度の題名は『神と人間のドラマ——創世記25〜36章による説教』、先行する二冊と同様に的確であり、かつ魅力的な題名である。創世記は二五章以降で族長ヤコブの生涯を物語っている。大変に「人間くさい、俗っぽい物語」であるが、その中でヤコブが神と出会い、いかに変えられていくかが生き生きと物語られている。この部分を著者は様々な注解書や参考書を参照しつつも、牧師としての実存を掛けて、教会の礼拝で語り続けてきたのである。その間、教会を転任したが、それは入念に説教の準備することに役立ったようである。

「神と人間のドラマ」という題名であるので、それが典型的に示されている二か所（二八章と三三章）に言及する。ヤコブは兄エソウから長子の特権と祝福を奪ったがゆえに、長い逃亡の生活を余儀なくされた。しかし、その最初の夜に夢の中で神の言葉を聞いた。つまり、「まさかこんなところに神様はいるはずはない」と思っていたところで、ヤコブは神と出会い、そ

るものでした」（二三八頁）。ここに著者の基本的な旧約理解が示されている。そして、この神との出会いが兄との和解をも準備したと説いている。すなわち、思いを越えて「今は赦してくれる兄の中に、祝福する神の何かを見るのです。『兄上のお願は、わたしには神の御顔のように見えます』（三三章一〇節）」（二四八頁）。良いメッセージである。

著者は現在、ヨセフ物語の説教を続けているという。さらに創世記三七章以下の四巻目の刊行に期待したい。

（四六判・一九四頁・本体一四〇〇円＋税・キリスト新聞社）
（おしま・ちから 青山学院宗教学部長・経済学部教授）



ルーテル教会の 信仰告白と 公同性

神学的自伝

石田 順朗 著

●四六判並製 ●本体1,400円

著者はルーテル世界連盟の中核で人種問題、ローマカトリック教会との対話等、重大諸問題に直面するグローバルな教会のリーダーシップの一端を担った。

若い世代の牧師として戦後の教会再建に直接携わった経験を綴った一章「ルーテル教会の公同性—戦後日本の各派ルーテル教会」は貴重な証言記録である。また、宗教改革500年の年にふさわしい論考として「伝道論から見たルター神学」や、「ルーテルのDNA」と題して、ルーテル教会の真髄、アイデンティティーを今一度とらえなおした。補遺として内外の追悼文6篇と召天記念礼拝の説教（清重尚弘）を収録。

ISBN978-4-86376-061-5

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

本屋さんを選んだお勧めの本

横浜キリスト教書店 高橋友彦

CD『至純のア・カペラ』

讃美歌名曲集

指揮・当間修一



1,800円+税
大阪レレグナム・ムジカム

キリスト教書店では、書籍のほかに教会関連・キリスト教関連用品や、音楽CD、映像DVDなども取り扱っています。今回ご紹介するのはCDの一枚です。

「至純のア・カペラ讃美歌名曲集」は、当間修一氏が主宰・指揮する大阪ハイソリティ・シユツツ室内合唱団による器楽伴奏を用いないア・カペラの讃美歌曲集です。当間氏がこのCDのライナーノーツ（音楽の解説文）にも記されている通り、全体にゆったりとしたテンポの合唱を通して、日本語歌詞の言葉と音楽による祈りを見事に表現しています。

一九五四年版讃美歌（第一編）から8曲、讃美歌第二編より6曲、そして讃美歌21から4曲の計18曲が選曲され、演奏時間は67分です。質の高い合唱による深い慰め

と癒し、そして信仰への励ましを得られ、聴く者の心を整えてくれます。
さまざまな苦しみや試練にある信仰の友への、慰めと励ましの思いを込めた贈り物としてもお奨めします。

横浜キリスト教書店

〒231-0063 横浜市中区花崎町3-16
TEL: 045-1241-3820
FAX: 045-1241-5881
休業日: 日曜・祝日
E-mail: sksch@nvalbiglobe.ne.jp
URL: http://www7.biglobe.ne.jp/~yokohama-cbs

徳島キリスト教書店 都築恭子

『聖書は何と語っているのか』

湊 晶子 著



1,000円+税
ヨベル

著者は東京女子大学学長などを経て、現在、広島学院院長・学長を務められています。本書は二〇〇〇年に東京女子大学同窓会で行った聖書研究講座をもとに、五つのテーマで構成されています。

I 聖書が語る人間の「生」、II 聖書が語る人間の「罪」と「死」、III 聖書が語るイエス・キリストの「生」、IV 聖書が語るイエス・キリストの「死」と「復活」、V キリストにある「生」。

タイトルの通り、どのテーマも聖書のことばを多数、丁寧に引用し、深い解釈でまさに「聖書は何と語っているか」を、私たちに分かりやすく、明確に示してくれまふ。夫を天に送り、自らも女学校の時、防空壕に生き埋めとなり九死に一生を得た経験、五〇歳代の手術、闘病、こうした著者の歩んできた人生から「人生とはなにか」「人は何のために生きるか」について語り、本書をより深いものとしています。各章に付け加えられた「聖書と人生」ア・ラ・カルトも興味深い記事です。

徳島キリスト教書店

〒770-0052 徳島市中島田町3-57-1
TEL: 088-633-6335
FAX: 088-633-6335
E-mail: tokushoten@shit.ocn.ne.jp
URL: http://www.toku-church-book.com



新刊



慈しみとまこと いのちに向かう主の小道

上智大学
キリスト教文化研究所 編
●四六判並製 本体 1,500円

本書は、2016年の聖書週間に上智大学にて行われた聖書講座をもとに、書き下ろした論集とシンポジウムを収録した。

聖書ヘブライ語からみる
「いつくしみ」と「まこと」

月本 昭男

●
教皇フランシスコの
神学における
「いつくしみ」の意味
ホアン・アイダル

●
「肝苦(ちむぐり)さ」の心
一神のいつくしみと私たちの回心
竹田 文彦

●
シンポジウム
慈しみとまこと
司会 竹内 修一

ISBN978-4-86376-062-2

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zeninikan_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・17F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千歳市延徳2-2 千歳クリスチャンセンタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	00160-2-18410
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taisindo-books.jimbo.com/	taisindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.biglobe.jp/~yohatara.cds/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunshala.coccan.jp/	nagoya-seibunshara@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曾根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびびるすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	共用		kobe-kirisyo@mse.biglobe.ne.jp	01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/masajama_1007/index.html	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用		kbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	903-0207	中環読潤字録577 沖縄キリスト教院内	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

既刊案内 (2017年10月～11月) (定価はすべて本体価格+税)

編・著・訳者	書名	判型	頁	本体価格	版元	発行日
L.D.ピエルマ著 吉田隆 訳	『ハイデルベルク信仰問答』の神学 —宗教改革神学の総合—	A 5	384	3,700	教文館	10/10
ニコス・カザンザキス著 藤下幸子、田島容子 訳	キリストは再び十 字架にかけられる	四六	772	3,500	〃	10/30
H.A.オーバーマン著 日本ルター学会、日本 カルヴァン研究会 訳	二つの宗教改革 —ルターとカルヴァン—	A 5	320	3,500	〃	10/31
浅野淳博	NTJ新約聖書注解 ガラテヤ書簡	A 5	538	6,000 (特価4,800+税、2018年3月31日まで)	日本キリスト教団出版局	10/1
	説教黙想アレティア特別増刊号 受肉の驚き —今、クリスマスはいかに語るか、—	B 5	128	1,852	〃	10/11
越川弘英、 吉岡光人 監修	主日礼拝の祈り	B 6	136	1,500	〃	10/20
細川和子	このえほんだいすき！ —読み聞かせのための48冊—	四六	136	1,300	〃	10/20
新教出版社編集部編	新教コイノニア35 戦後70年の神学と教会	A 5	160	1,500	新教出版社	10/20
マリリン・ロビンソン著 宇野元 訳	ギレアド	四六	350	3,000	〃	10/31
小川修	小川修パウロ書簡講義録6 —コリント後書講義—	A 5	353	3,000	リトン	10/16
上智大学キリスト 教文化研究所編	慈しみとまこと —いのちに向かう主の小道—	四六	132	1,500	〃	10/30
石田順朗	ルーテル教会の信仰告白と公同性 —神学的自伝—	四六	200	1,400	〃	10/31
富岡愛美	豊かな牧草地へ	四六	144	1,000	ヨベル	10/10
マイケル・ロダール著 大頭真一 訳	神の物語 上・下	新書 上320 下304	各 1,400	〃	〃	10/25
松本敏之	神と人間のドラマ	四六	194	1,400	キリスト新聞社	10/25
片柳弘史	こころの深呼吸 —気づきと癒しの言葉366—	A 6	390	900	教文館	11/20
ノエル・ストレットフィールド著 中村妙子 訳	ふたりのスケーター	四六	210	1,200	〃	11/20
近藤勝彦	十字架のキリスト 以外に福音はない —ガラテヤの信徒への手紙による説教—	B 6	184	1,700	〃	11/30
R.ポーレン著 川中子義勝 訳	祈る—パウロとカル ヴァンとともに—	四六	214	2,500	〃	11/30
鈴木佳秀	VTJ旧約聖書注解 出エジプト記1～18章	A 5	322	4,400	日本キリスト教団出版局	11/20
トム・ハーパー作 中村吉基訳/望月麻生絵	いのちの水	B 6	54	1,500 (特価3,400+税、2018年4月30日まで)	新教出版社	11/20
アントニー・M・コニアリス著 松島雄一 訳	落ち込んだら —正教会司祭の処方箋117—	四六	304	1,600	ヨベル	11/20

福音と世界

2018年2月号

特集 笑うキリスト教

寄稿者 越川弘英、滝澤武人、飯塚友康、

服部弘一郎、お笑い米軍基地

レヴィナスと人間の苦悩 長尾優 / 性的マイ

ノリティ差別と韓国教会の「異端」論争 長

尾有起 / 映画「幼子われらに生まれ」評 吉

田咲 / 好評連載 向谷地宣明、末井昭、高井

ヘラー由紀、ブレイディみかこ、芦名定道、

内田樹、辻学、望月麻生、佐藤優

A5判・本体588円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyō-pb.com

編集室から

都市伝説の類かもしれないが、ウィンドウズ97が出た頃、インスタクターに「まずウィンドウズを開いてください」と言われて部屋の窓を開けたり、「マウスを右に移動」と言われて、「これ以上、机の余地がありません」と答えた人がいたというもっと前には、「フアックスって今日中に届くよね?」と念押ししたオジサンがいたとも聞く。どれも真偽を確かめようもないが、初心者であった頃を思い出せば、誰もが似たような経験をしたのではないだろうか。

インターネットの普及で減りはしたが、以前当編集室には、「聖書はどこで買えるのですか?」という問い合わせがあった。「キリスト教書店か大型一般書店に行けばあります。町の本屋さんでも取り寄せてくれますよ」と事務的に答えてもよいのだが、おそらくキリスト教初心者であろう相手を慮って丁寧に応

対した。というのも、電話の主は教会でしか聖書を手でできないと思っている可能性があるからだ。まさか、と思う人はキリスト教に慣れた人である。初心者にとって聖書は単なる古代文書ではない。立場を代えてみれば事情が分かる。たとえば「真言宗〇〇派勤行聖典」を入手したいと思つたら、檀家ではない者が購入できるのかどうか困惑するだろう。「仏教書店か一般大型書店に行けばありますよ」と言われたら、安堵と共に、ある種の宗教的期待感が削がれるかも知れない。

慣れてくると、初心者だった頃のトンチンカンな自分を忘れて「手であることを足でする」ようになる。その点、コンピュータ等の「取扱説明書」は良くできている。操作の第一に「電源プラグをコンセントに差し込む」と明記してある。笑つてはいけない。初心者を忘れていないのだ。文書伝道に携わる者として心に銘記しておきたい。(寺田)

本のひろば 2018年3月号 予告

本・批評と紹介…『キリスト教教父著作集3』3 異端反駁V エイレナイオス著、『イエスの譬え話2』山口里子著、『日本プロテスタント史の一断面』落合建仁著、『新訳 聖潔のしおり』サムエル・ブレンゲル著、『聖書道しるべ』関田寛雄著、『義認と自由』ドイッ福音主義教会常議員会著、『キリストは再び十字架にかけられる』ニコス・カザンザキス著、『祈る』R・ポールン著、他

神と向き合って生きる

魂を震わす

23の説教

横田幸子 著 (よこた・さちこ氏は日本基督教団引退教師)

聖書のメッセージを深く読み解き、「信ずる」「祈る」「愛する」「生きる」というテーマに沿いながら、現代人の魂の渴望に応える。

◆四六判・本体1700円

1月24日

カルヴァン政治思想の形成と展開

住田博子 著 自由の共同体から抵抗権へ

独裁的な神政政治が近代的自由の先蹤か。ジュネーブの実態を検証しながら、カルヴァンの聖礼典論に表現された共同体思想に着目した俊英の力作。

◆A5判・本体3600円

1月25日

信仰の基礎としての神学

キリスト教神学への道案内

1月25日

松田 央 著 現代人の知的関心と求道的関心に応える神学入門。

◆四六判・本体1700円

ローマ帝国のたそがれとアウグスティヌス

磯部 隆 著 (いそべ・たかし氏は名古屋大学名誉教授)

神学的巨人を帝国の衰亡史と重ねつつ描いた異色の小説。

◆四六判・本体2200円

第二コリント書 8―9章

【現代新約注解全書】

佐竹 明 著 (さたけ・あきら氏は広島大学、フェリス学院大学名誉教授)

世界最高水準の第二コリント注解刊行開始。

◆A5判・本体7000円

いのちの水

大反響

トム・ハーパー 作 / 中村吉基 訳 / 望月麻生 絵

昔々、いのちの水の湧き出る泉があった。しかし、感謝するために建てた記念碑は次第に大げさな礼拝堂となり、ついには泉がどこにあるのか分からなくなってしまった……。聖なるものを囲い込もうとする宗教の閉鎖性を痛烈に批判した寓話を、達意の訳文と、美しい消しゴム版画によって贈る。

◆B6判・本体1500円

いのちの水

Tom Harper 著
吉基 中村 訳



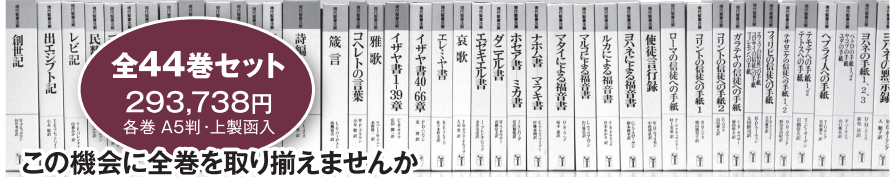
説教作りを助け、信徒の学びに供する
 実践的な注解シリーズ

現代聖書注解

INTERPRETATION
 A Bible Commentary for Teaching and Preaching

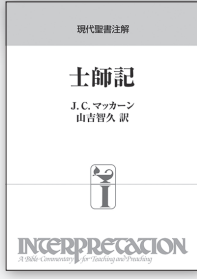
31年の歳月を経て

全44巻 完結!



全44巻セット
 293,738円
 各巻 A5判・上製函入

この機会に全巻を取り揃えませんか?



士師記

J. C. マッカーン
 山吉智久 訳

最終回
 記本

争いと残虐行為と不道徳に満ちた士師記だが、それらは21世紀を生きる私たちが直面する問題でもある。抑圧にうめくイスラエルに士師たちを送り、絶えず民を救おうとし続ける神の恵みを語る士師記から、現代への使信を読み解く。

2018年1月25日刊行予定

◆A5判 上製函入・242頁・4,860円

恵みによって生きる人間の形成 キリスト教教育の理論と実践

《朴憲郁先生献呈論文集》上野峻一／田中かおる 編著

キリスト教教育と日本文化との相克、平和教育、ルターの教育観、幼児教育における神の愛の伝え方など、神学校でキリスト教教育を専攻し、様々な現場で実践に取り組む働き手たちの論考集。

2018年1月25日刊行予定

◆A5判 上製・224頁・2,808円



本のひろば
 第七二二号 二〇一八年一月号

発行所 〒162-0814 東京都新宿区新小川町九一 一般財団法人キリスト教文書セター
 電話〇三三六〇一七五〇 振替〇〇七〇一五二六六九
 発行人 本村利春 編集人 土肥研一 印刷所 (株)平河工業社
 発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話〇三三六〇一五六七〇

定価七八円(税抜七円)(千62円)
 一年分三〇〇円(送料共)